

神の似姿

知っておきたいキリスト教のことば（44）

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」（創世記1章27節）

このように、人間は神さまのかたち（像）を継承して創造されたと、聖書には書かれています。この「神のかたち（image of God）」と、タイトルにある「神の似姿（likeness of God）」とは同じ意味で語られることもありますし、区別して考えられることもあります。

たとえば新共同訳聖書では、「この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。（コリントの信徒への手紙二4章4節）」となっている箇所が、新しい翻訳の聖書協会共同訳では「神のかたち」と訳されており、どちらも同じような意味で捉えられていることがわかります。

しかし初代教父の時代には、「神のかたち」と「神の似姿」とは区別されて考えられていました。アダムが罪を犯したことで、人間が本来保持していた「神の似姿」が崩されたと考えたのです。神さまにそれだけ似ているのであれば、罪を犯すはずなどないという理由からです。そして「神のかたち」は、罪を犯した後も維持され続けていると考えられました。だから「神のかたち」と「神の似姿」とは違うものだとされていたのです。

今のわたしたちにとって、上記の議論はあまり意味をなさないかもしれません。しかし神さまがわたしたち人間を、どのようにして造られたのかを覚えることは、とても大切なのではないでしょうか。

神さまはわたしたちを造られた時に、「とても良い」と祝福されました。それはご自分の似姿であるわたしたちを、とても愛されたからです。わたしたちは「神の似姿」として、その愛に応える者となりましょう。



次回は「ガリラヤ」です。お楽しみに。